

第1回自殺対策計画策定委員会 議事録

|         |  |
|---------|--|
| 実施日     | 平成30年9月21日(金) 13:00 ~ 14:00                      |
| 策定委員会委員 | 出席委員：橋本 玲子 桶谷 正美 中谷 勇 島田 睦郎<br>道下 妙子 瀬戸 博行 柚木 伸介 |
| 事務局     | 上出 課長、橋爪 補佐、中橋 総括主査、水野 主事【福祉課】                   |

13:00～ 課長挨拶

13:05～ 委員会委員 及び 事務局 紹介

事務局：自殺対策計画策定委員会の位置づけ、役割等について説明

委員長の選任、挨拶 及び 委員長職務代理（副委員長）の指名

自殺対策策定委員会委員長 橋本 委員

同委員長職務代理（副委員長） 桶谷 委員

議件1：策定スケジュールについて

議件2：計画の基本的な考え方

議件3：計画骨子について

橋本委員：議件1から議件3まで一括して審議いたします。事務局より説明をお願いします。

事務局：計画策定に係る住民意識調査の実施及び調査内容等について、  
策定スケジュールについて、  
計画の基本的な考え方（国や県等の動向、法改正等の経緯 など）について、  
計画骨子について 説明。

橋本委員：質問等なければ、  
議件4「住民意識（アンケート）調査の結果について」初めに事務局より説明をお願いします。

事務局：住民意識調査（アンケート）の概要説明及び調査結果の説明。

委員：回収率が31.8%と県内の市町でも低いため、やはり意識の低さが見られる。また、回答者の年齢区分においても60歳代以上が約半数を占めていることを念頭に調査結果を見ていただければと思う。

この結果に、友人を相談相手に選ぶ方が多く、また、かかりつけの医療機関や公共及び民間の相談機関、町主催の各種相談会を多く選択いただいている。それらの機関を求めている方への周知・啓発が大事ではないかと思う。

P.27【自殺対策の推進が望まれる地域の機関】について、大勢の方が「小中高」を選択しており、世論的にも関心が高い部分であるため、是非力を入れていただきたいと考えています。

## 第1回自殺対策計画策定委員会 議事録

委員：郵送の回収率としては31.8%というのは頑張ったのかなと感じる所ではありますが、人口比率として、有効な意識調査であったかは難しいと感じる。

また、半数以上の方が「悩みやストレスを誰かに相談することは恥ずかしくない」と考えている様子がみられる一方、近所の人たちには相談しないところが気になる。しかし、はじめに様子に気づくのは近所の方だとも感じます。

委員：追加になりますが、P.16の「地域住民が助け合うために大切なこと」という設問の箇所、近所との声かけや地域活動への参加などがあげられていますが、自殺対策として、様々な場所に相談が持ち込まれるか分からない。そのため、多くの方が声かけ合ったり、寄り添って話を聞いて、適切な相談機関へ繋いでもらえるようなことが大切で、ゲートキーパーなどを活用して、配慮して計画策定していただければと思います。

委員：他の市町についても、このような住民意識調査を行ったりして策定しているものなのでしょうか。石川県としてもそのような方向で計画策定を促しているのでしょうか。委員会としては、どのような方向や考え方の基、計画を策定していく、議論していくこととなるのでしょうか。

事務局：厚生労働省より計画策定に関して作成の手引きが出ております。各々の地域に合った計画の策定をとされておりますので、作成の手引きに沿いながら、事務局の方で行政としての取組、各種福祉団体の取組などからの聞き取りも予定しております。素案を作成しますので、重点的に取り組む事業などのご意見を今後お聞きしていきますので、お願いいたしたいと考えております。

委員：住民意識調査の対象者をなぜ20歳以上としたのか。調査結果をみると、義務教育機関での取組が求められているため、それが妥当であったのか。本来、調査を行う前に対象者の抽出段階から関わるべきだったのではないのか。

事務局：ご指摘のとおりではありますが、今年度中の策定となるため時間がなく、本来であれば事前に質問事項などを相談の上実施すべきところではありましたが、先に実施することとなり申し訳ありませんでした。

委員：石川県の中央圏域において、計画策定において住民意識調査を行っている市町は内灘町と津幡町の2町です。若者や高齢者といった自殺死亡率などに基づいた各市町にあった計画を策定することとなりますが、計画策定だけが目標ではなく、部署の垣根を越えて話し合い、繋がりあう過程も大切にしていきたい。

委員：本日の資料だけでは、内灘町の現状があまり見えてこない。全国や県と比較してどうなっているかも見えてこない。住民意識調査を実施したことは良いことだと感じているが、是非次期委員会ではより具体的に示して欲しい。

## 第1回自殺対策計画策定委員会 議事録

以前、職場の同僚が自殺未遂をしたことがある。同じフロアに居ても、部署が異なると顔をあわせても、会話をしない。自殺というのは、本人の生活や会話をしていても見逃すことが多いように感じる。紙面上の計画だけでは、果たして効果的なものになるのか疑問である。

確かに、計画を策定することも大事だが、委員として携わる以上、内灘町の現状をより具体的に示していただいた上で、検討させていただきたい。

委員：中谷委員の発言のとおり、アンケートだけや目先の施策だけでないようにしていただきたいと思います。

また、自殺される方はかなりの覚悟をもってされることがある。その統計や研究データがある程度あると思いますので、そちらとも比較していただきたい。

委員：全国的に3万人から減少してきているのだから、内灘町においても減少傾向にあるととらえてもよいか。

事務局：こちらの資料としては、(内灘町の自殺者数は) H28年度は5名、H27年度は8名、H26年度3名、H25年度3名、H24年度1名となっています。本町の人口規模ではどうしても年度によって増減はある現状です。(中谷委員) ご指摘の本町の現状は現在作成しているところですので、でき次第、後日送付いたします。

データの記載内容につきましても、個人が特定されないように作成しておりますので、もうしばらくお待ちください。

委員：P.27の調査にて、小中学校へ寄せられる住民の方のニーズの高さを感じております。アンケートの結果で、クロス集計等でどの年代や性別の方が多く回答しているなども分かるのではないかと考えます。

委員：「命の大切さ」だけでなく、誰にでも起こることであり、精神疾患を伴うことが多いとされており、併せて周知啓発をいただくようお願いしたいと思います。

委員：事務局より連絡事項等がありますか。

事務局：追加資料ができ次第、委員の皆様には送付させていただきます。また、次回委員会につきましては12月を予定しております。その際は改めて皆様の日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

終会（～14:00）